

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 22年 2月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	'0171100381		
法人名	ちば設備工業 株式会社		
事業所名	グループホーム かつらぎ		
所在地	〒066-0067 北海道千歳市桂木町3丁目1-2 (電話) 0123-22-6671		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成22年1月25日	評価確定日	平成22年2月24日

【情報提供票より】 (22年 1月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年	3月	21日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	18人	常勤	6人	非常勤 12人、常勤換算 4.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円		
その他の経費(月額)	共営費17,760円 暖房費(10月～3月) 5,820円		
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,153 円

(4) 利用者の概要 (1月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	8名	要介護2	6名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.2歳	最低	75歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千歳病院、パークあおき歯科、千歳第一病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設3年を経た2ユニットの当事業所は郊外の住宅地にあり自然環境に恵まれている。新設の建物でオープンキッチンを中心とした回廊式の共用空間は明るく・広々と開放感に溢れ、トイレ・浴室の車椅子対応など全てバリアフリーとなっている。運営推進会議などを通じて町内の各種行事参加、ボランティアや実習生の受け入れ、介護相談への対応など地域と積極的に交流し、双方向的連携を構築している。家族とは良好な関係を築き、家族会があり、訪問も多くサービスの向上に繋がっている。同業者ネットワーク「絆の会」に加入して研修会参加・相互訪問・勉強会などを実施し、利用者本意で継続した地域生活を支えるケアサービスの質の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題①家族への報告は定期的「かつらぎ便り」の発行②職員育成はネットワーク加入で研修・勉強会に参加③馴染んでからのサービス利用は安心と納得を得てから入居④日常的外出は本人本意の支援を工夫⑤災害対策はスプリンクラー設置・想定別訓練の実施等、改善に至っている。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4) 全職員で自己評価を実施し、管理者が纏めている。管理者・職員は評価の意義・目的を理解し、日々実践しているケアサービスを振り返る機会となっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は隔月開催し、事業所の活動内容や運営状況などを報告している。利用者の地域生活を支える為に認知症への理解や協力を求め、会議メンバーからは評価結果や課題改善への意見や情報をもらっている。会議の内容をミーティングなどで話し合い、サービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会や運営推進会議への参加、意見箱や事業所内部・外部に苦情受付機関を設置するなど、意見・苦情・要望などを伝えてもらえるように取組、それらを運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との交流には積極的に取り組み、町内会の各種行事に利用者と共に参加し、ボランティア・実習生の受け入れや地域住民からの介護相談にアドバイスをするなどの双方向的連携を構築している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設2年を経過した時点で理念を見直し、ケアサービスの具体的目標と利用者本意で地域密着型サービスの役割を明確にした事業所独自の理念を全職員で作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は日々の申し送りやミーティングにおいて、理念の確認と共有を図り、ケアサービスの実践に反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とは積極的に交流し、河川敷の清掃・資源ごみ当番・町内会館清掃やカラオケの会など、町内会各種行事には利用者と共に参加している。地域住民からの介護相談にアドバイスをしたり、資源ごみ回収への協力、実習生やボランティアの受け入れなど双方向的連携を構築している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を実施し、管理者により纏められている。管理者・職員は評価の意義・目的を理解し、日々実践しているケアサービスを振り返る機会となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月毎に開催し、活動内容や運営状況などを報告している。利用者の地域生活を支える為に認知症への理解や協力を求め、評価結果や課題改善への意見や情報をもらっている。会議の内容をミーティングなどで話し合い、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に事業所運営についての質問や相談をし、助言や指導を受けている。管理者・職員は地域包括センター会議に参加して、情報の共有や課題解決を図り、サービス向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の日常の様子・健康状態や金銭出納などは家族の来訪時に伝えており、訪問されない家族には手紙や電話で報告している。季刊「かつらぎ便り」を発行し、事業所内外での各種行事を写真入りで紹介するなど、定期的な報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議への参加、意見箱や事業所内部・外部に苦情受付機関を設置するなど、家族に意見・苦情・要望などを伝えてもらえるように取り組み、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設立当初は職員の離職が多く見られたが、その後は安定している。代わる場合の影響を考慮し、ユニット間での申し送りを毎日実施して利用者の状態を把握し、ダメージを防ぐ工夫をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の研修受講を重要視し外部研修の情報などを伝え、受講希望に沿えるように努めている。研修内容はミーティングなどで報告し、情報を共有してサービス向上に活かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者ネットワーク「絆の会」に加入し、会主催の研修会への参加、会員の相互訪問や勉強会などを実施している。地域の同業者と積極的に交流し、連携してサービスの質向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時には利用者・家族と時間をかけての話し合いや入院先の訪問、事業所を見学して雰囲気に馴染ってもらうなど、納得してからの利用開始となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者に寄り添い、共感し合いながら暮らす大切さを理解している。人生経験豊かな先輩として尊敬し教えてもらう場面も多く、生きがいのある日々となるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の話や利用者の生活歴から希望や意向を把握する事に努め、日々の関わりのなかでの表情や行動からも汲み取れるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のミーティングやカンファレンスで担当職員などの気づきや状態の変化を話し合っ検討し、本人・家族の意見・要望も反映させた利用者本意の介護計画を作成している		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に基づいて支援し、毎月のモニタリングや介護記録の経過を確認して3カ月毎に見直しを行っている。状態の変化に応じてはその都度の見直しも行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況や要望に応じて、通院介助、個別の買い物、理・美容院の送迎、選挙投票、墓参りなどを柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による月1回の往診と訪問看護ステーション看護師による週1回の訪問看護を実施しているが、利用者・家族の希望するかかりつけ医受診を基本に支援している。訪問看護ステーションとは24時間対応の体制があり、必要に応じて訪問歯科受診も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応指針を作成し、契約時には利用者・家族に説明して了解を得ている。重度化した場合には職員・家族・医師・ソーシャルワーカーなどと話し合い、方針を共有して支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の性格を理解することに努め、自然で優しい言葉かけや誇りを傷つけない対応をしている。個人記録はスタッフルームに保管され適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりのペースを把握し、体調や希望に配慮して柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を把握して季節感や行事食を取り入れた献立とし、体調・誤嚥・持病などに配慮した個別対応も行っている。職員は利用者の能力に応じて下膳や食器拭き等を一緒にしている。	○	食事の職員は一人のみ席に着き、他の職員は利用者を支援する為に立ったまま見守りや声かけをしていた。事業所としての事情があるとしても、席の後ろに控えていることは家庭的な食事風景とは言えない。共に食卓を囲み共感しながらの支援を望みたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は夜間以外に時間や曜日に決まりはなく、利用者の習慣や希望、その日の体調を考慮して支援している。楽しく入浴してもらう為に、月毎に色・香りの違う入浴剤を使用するなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の生活歴などから得意な事や興味のある事を把握し、裁縫・鉢植え・書道・家庭菜園などで出番や役割を持ち、楽しく生きがいのあるその人らしい暮らしとなるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の暮らしが単調にならないように、季節の行楽行事・お祭り・外食・買い物・散歩など外出の機会を出来るだけ設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中のユニット玄関は見守ることで施錠しない支援を実施しているが、夜間は防犯上施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練は、出火場所を替える・階段を使用する・夜間帯などの想定別で実施している。消防署との火災通報連絡システムやスプリンクラーを設置し、緊急時マニュアルや連絡網を作成して見やすい場所に掲示している。町内会や運営推進会議のなかで地域への協力依頼を実現に向けて働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事量を記録し、利用者一人ひとりの体調の変化や特性を把握して支援している。管理栄養士によりカロリー計算された栄養バランスの取れた食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全てバリアフリーの共用部分はキッチンを中心にした回廊形式で、明るく広々とし開放的で清潔感もある。居間や廊下には利用者手作りの壁掛けや写真・絵・書道作品などを掲示し、各所に鉢花を置くなど生活観や居心地の良さに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は使い慣れた家具類やテレビ・仏壇・日用品などを持ち込み、写真・壁掛け・鉢植え・趣味の品などでその人らしく安心して落ち着いた暮らしが出来る居室となっている。		

※  は、重点項目。